



ハタラクヒト *ペディア

<安形弘二氏>

田中永子

はじめに

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだろうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。

行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

第13回は、

アガタふとん店 三代目の安形 弘二さんです。

安形さんは、刈谷市商工会議所に在籍。

現在はアガタふとん店の三代目として、寝具の製造・販売を提供なさっています。

安形 弘二氏



アガタふとん店

寝心地のよい寝具を提供しており、

お店のモットーは「お客様により良い寝心地を」。

趣味： ポーっとすること、ドライブ、読書、ゲーム、海外ドラマ鑑賞、映画鑑賞、ジム通い

好きな本： 本全般

好きな音楽： 音楽全般

連絡先： アガタふとん店

電話番号： 0566-22-2981

メール： agata_futonten@ray.ocn.ne.jp

HP： <http://www.agata-futon-ten.com/>

◆昔から伝わる日本の技術の高さ

安形弘二さん（以下敬称略 安形）： 大学行っていると、ずーっと理系じゃないですか。で、息抜きでまた車やると、「きついなー」って（笑）

田中永子（以下 田中）： あはは。

安形： 息抜きは、「違うことやりたいなー」って。で、サラリーマン辞めて、自営業の布団屋さんになって、全然違う事になったんで。そうすると「なんか足りないなー」って。

田中： 理系要素が（笑）

安形： そう。理系要素。まあ一応手ごろなやつだと、車。

田中： 普段は、何乗ってらっしゃるんですか？

安形： 『ヴィッツ』。一応走るやつで、RS乗ってて。

田中： 改造とかしてるんですか？

安形： あ、まだしてない。

田中： まだってことは、予定はあるんだ（笑）

安形： あー、『ハチロク』が出るかどうかの時に買っちゃったから。でも車として違うので。ハチロクとヴィッツ。でもヴィッツにあんまりお金かけてもね。

田中： そっか。ヴィッツの先に、ハチロクが視野に入ってる感じ。

安形： そう。視野に入ってる。ヴィッツに投資する代わりに、そっち用にプールしとかなきゃ。

田中： さわるのって、どういったところをさわるんですか？ 見てるといろいろあるじゃないですか。街中で見かける『痛車』とか、マフラーいじったりとか。どういうところいじるのかなって。

安形： まあ、趣味ですからね、あれ。乗ってる人の考えで。

田中： ちなみに安形さんは、どんなところを？

安形： いじるとしたら、まずホイール。あと、サスをいじるかもしれない。そこから周りの飾り。

田中： っていうことは、割に走り。

安形： 走り重視。で、ステッカーとかも貼っちゃうんですけど。

田中： うん。どこのステッカー貼るんですか？

安形： いや、自分でつくりますよ。めんどくさがり屋なんですけど（笑）「自分でつくる方がめんどくさいんじゃないか」ってなるんですけど、「つくった方がいいなー」ってのはあります。

田中： 何系のステッカーなんですか？会社のロゴとか取り込んで作ったりするんですか？

安形： よくあるのがホイールメーカーさん、タイヤメーカーさんとかの社名をとりだして車に貼る。ミ〇ユランとか。車全体見て、「ここ貼った方がかっこいいんじゃないか」っていうので。

田中： トータルのなものなんですね。

安形： ですね、ぼくの場合は。よく歌手のステッカーをリアに貼ってるのって、あるじゃないですか。ああいうことはあんまりしないないですね。

田中： お布団屋さんのを貼るっていうのはどうですか？

安形： それは、ありかもしれない（笑）

田中： あのロゴは？安形さんがお作りになったんですか？

安形： あれは、家紋なんですよ。結構デザイン的にもポップで。

田中： はい。かわいいなあと思って。

安形： で、「お店のマークにしちゃえ」って。

田中： そのマークは、安形さんの代になってから使われるようになったんですか？ それとも以前から？

安形： まあ、二代目がちよくちよく使ってて。結構二代目がロゴを変えたり、いろいろする人だったんで（笑）ぼくとしては、ポップでいいんじゃないかなと。

田中： かわいいですよ。

安形： 意外といまどきだし。

田中： そう。今って、古くて新しいですもんね。ああいう家紋であったりとか、昔のデザインのよさが見直されてる感じがします。

安形： あー。

田中： 私もよく本屋さんに行くんですけど、昔の千代紙の図柄の見本帳だったり、着物とかに描いたりする古典的な柄とかの図鑑とかみかけて。昔のデザインが見直されてきてるのかなって思います。

安形： デザインは一緒だと思うんですけどね。結局やってることは一緒なんで、昔も今も。

田中： はい。家紋って、戦場（いくさば）で「〇〇家」っていうのがわかるようにしたものなんじゃないですか、「〇〇家、来たー」みたいな。

安形： あー、『いくさば』ね？ 確かに『せんじょう』って言わないな、日本で（笑）

田中： なんか戦場っていうと鎧が出てきそうかも。中世の角があるような。

安形： そうそう（笑）「いくさ場」って言った方がしっとり感があるな。

田中： 言葉が持つイメージって、あたりをしますし。

安形： ありますね。意外と家紋とかも、おもしろいですよね。デザイン性って、お店のポップで使ってみて思ったんですけど。

田中： うん。

安形： あれ、イラストレーターで作ったんですよ。昔なんて、イラストレーターってなかったじゃないですか。

田中： なかった、なかった。

安形： 昔の戦場で使ってた旗とか、博物館に置いてありますよね。あれ見ると、すごいきれいに染めてあって、「なんだ？ この技術」って驚きがあるんだよね。

田中： そうそう。

安形： どうやってセンター決めてるんだろうとか。

田中： 昔なんて今みたいにコンピューターもないし、機械も無いし。みんな手仕事ですもんね。

安形： そう！「えらくきれいなライン出てるなあ」って。染めとしても、型紙使ってるはずなんで、すごいなーと思いますね。

田中： 日本の昔からの技術力って高いですよ。

安形： 高いですね。

..... つづく ^^

◆江戸時代、布団を使っていたのは遊廓くらいのもの

田中： だから、お着物とかも高くなってもしょうがないなって思います。

安形： お着物？ あれはねー。お布団屋さんやるようになって気づいたんですけど、着物ってシルク100%なんですよ。

田中： うん。

安形： 着物とか、染めの技術とか見て、これは男は一生着れないだろうと（笑）

田中： え？

安形： 男でフォーマルっていったら、スーツじゃないですか。シルク製品っていったら、ネクタイなんです。女性って、うらやましいなあって思います。

田中： 男性の着物姿もかっこいいですよ。私の知り合いの方は、やっぱり着物が好きで、昔の書生さんみたいに、下にタートルセーター着ちゃったり、マフラー巻いたりして楽しまれてますよ。

安形： いいですね。

田中： シルクはお高いけど、最近は綿ものも出てて「そういうのもいいよね」って。着物とかは、お好きですか？ 興味はおありですか？

安形： 興味はありますね。ファッション性で気に入ったから着るのか、それをつくってる技術が気になるのか、どっちだろうって考えたり。自分が着るとしたらカジュアル系のやつかな。

田中： ふふ。着物の会を発足しましょう（笑） カジュアルから。安形さん、とっても似合う気がします。

安形： うん。「似合います」と、自分で言っとっちゃいかんですね（笑） ぼく、中学校くらいまでかな、尺八をやってたんですよ。やらされてたというか。

田中： おー。またしぶい。

安形： それで着物を着るじゃないですか。発表会では袴はいて。その時、結構周りから「似合

ってるね」って言われたりして。

田中： 着物って、お布団屋さんっていうイメージにも合ってる感じします。

安形： 合いますね。

田中： お布団って、日本のものだから、イメージアップにもなりそう。

安形： それは思いますね。調べてないんですけど、昔の布団屋さんはどうな格好してたのかわかって。

田中： ん??

安形： 江戸から明治とか。江戸時代、着物等々着る人って裕福なんで。

田中： じゃあ、何を着てたの?

安形： ふんどしと、木綿の羽織ものとか。

田中： 籠屋さんが着けてたようなものを着てたってこと?

安形： だと思います。

田中： でも、布団の『かわ』って、着物のものを使うんじゃないんですか?

安形： そうです。でも、布団は、元々は畳なんですよ。

田中： 畳?

安形： 畳的なものを、敷布団として使っていたんです。

田中： 平安時代とかみたいに?

安形： 歴史的にみると、一番最初のやつは。えっと、奈良の方にある倉庫、三種の神器の一個が入ってる……。

田中： 正倉院?

安形： それ。その中に昔の天皇が使っていたベッド的なもので、残っていたのが畳の素材の井草で。庶民は、着てたものを布団代わりに掛けて、床で寝るという状態だったらしいです。

田中： 痛そう。

安形： そこから、鎌倉、江戸になっても、布団を使える人は限られた裕福な人だったらしいですよ。江戸時代なんか、庶民だと遊郭で働いていた女性くらいしか使えなかったとか。

田中： 時代劇見ると、縫い合わせたような煎餅蒲団敷いてるじゃないですか。「ゴホゴホ。悪いねえ。おまえには世話ばかりかけて」「おっかさん、それは言わない約束でしょ」みたいな（笑）

安形： ありますねえ（笑）でも、あれは結構「なんちゃって」だと思います。

田中： ほんとう？

安形： 衝撃ですよ（笑）昔の浮世絵等々あるじゃないですか。あれ庶民の暮らしを描いてるので、それをずーっと見てくと、布団が出てくるのは、遊郭にしか出てこないです。

田中： 意外。

安形： 意外ですよ。布団は高級品だったんですね。

田中： 以前友人と、人が亡くなった時の埋葬の話をしてて。

安形： はい。

田中： 「昔は、火葬出来るのは、裕福な人だけだったんだよ」って言われて。今、それと同じくらいの衝撃が（笑）

安形： そうですか？（笑）

田中： はい。土葬がほとんどだって言われて、「ほんとに一？」って。

安形： 火葬はいつくらいからなんでしょうね。

田中： なんか、江戸時代くらいかららしいとか。それでも僧侶とか身分の高い方じゃないと、火葬じゃなかったらしいです。いや、なんか話がおかしなところに。マニアックになってしまおう（笑）

安形： いや、マニアック、いいじゃないスカ（笑） どこかしら、みなマニアックですよ。

田中： ええ。私は全然構わないんですけどねー。まあ、それぐらいの衝撃だったということだけお伝えしたいなと。

安形： 笑

田中： そうしてみると、意外にお布団の歴史って、浅い感じなんですね。

安形： 浅いですね。今の形になってからは、浅いと思います。意外と昔のふとんの歴史ははっきりしてないんですよ。こんなものだろうってのはあるんですけど。さっきの着物の生地を使うっていうのも、あの幅の反物を使っていたということで。機織り機もあの幅のものしか出来なかったんで、「あれを使ってなんとかしないといけない」っていうので、それを組み合わせて。

田中： ええ。

安形： 掛布団も、最初は着物をかけてたんですけど。「夜着」とか「かいまき」とかって知ってます？

田中： 知ってます。

安形： あれ、着物の形ですよ。そっから平たくなってる。

田中： それから布団に？

安形： 掛布団になって。掛布団の基本的な構造は、縫い合わせは着物と同じ。

田中： へええ。

安形： 前あわせで、左前。

田中： 左前。右手が入る形の着方ですからね、着物って。

安形： 最近は、綿布団が使われる方、なかなかいないですね。

田中： 私、結婚する時、親が用意してくれてましたね。夫婦布団は先方が。女側が持つてくのは、お客さん用二組と座布団、って持つてきました。

安形： へえ。

田中： そのお布団を用意してもらったのは、私の着物を仕立ててもらったところをお願いしたな～って……思い出しました。

安形： ですね。今でもそうですけど、呉服屋さんが布団を売ってるって多いと思います。

田中： なるほど。

．．．．． つづく ^^

◆頭が良すぎるとアウトプット出来ない

安形： ところで田中さんって、学生の時って何してました？

田中： 私？私が聞かれてる？（笑）私は、結構ヲタクでした。

安形： 何系ですか？いろいろあるじゃないですか（笑）

田中： 私は、アニメ、漫画。文系ですね。

安形： じゃあ、自分で何か描いたりとか。

田中： うん。漫画家になりたかった（笑）

安形： マジで？（笑）同人誌も描いたり？

田中： 同人誌ではないけど、仲間内で好きなアニメの『その後』をノートに書いて、小説&イラスト、時に漫画にしたりして、描いたのを回してました。今でいう『二次創作』的な（笑）

安形： あー、やりましたね。ぼくも大学時代漫研にいたんです。

田中： へええ。私、ファーストガンダム世代で、ガンダム終わった後のイデオンが映画化された時にひとりで見に行ったり。

安形： 濃い話ですよ（笑）

田中： ええ、「コスモ、病んでるよ」とか（笑）それが抜けきらずに今に至る、みたいな。

安形： なるほどお。田中さんがわかったような気がします（笑）

田中： ん？こっち系の話はキリがないので、やめましょうね（笑）

安形： えっ？ そうなの？でも、思うのは。

田中： 話したいんですね（笑）

安形： いやいやいや（笑）まあ、そういうのきっかけで、ちょっと濃ゆい話をすると。

田中： うん。

安形： 結局、何をやるかっていうと、絵を描いたり、文字を書いたりする等々が好きな人は、結構運動しなかったりする傾向ないですか？

田中： うーん。私そんなに走るの遅くなかったし。高校3年間バドミントン部でした。

安形： あー。ぼくもやってた時は、お話系がすきで、映画もアニメもひっくるめて好きで、たまたまやったのが、「漫画を描こう」ってことになるんですけど。

田中： うん。

安形： 漫画を描こうとすると、運動神経なんですよ。

田中： そうなの?? それ、新しい説。どんなところが運動神経なんですか？

安形： 簡単に言うと、野球のピッチャーのコントロールと同じで、同じところボール投げないといけないから。

田中： 絵で言えば、同じように描く、絵柄的に安定させるってこと？

安形： まあ、そうですね。きれいにラインを描くってことは、自分が思ってるきれいなラインを、そのまま紙に描くわけなんで、結局運動神経なんですよ。そうじゃないですか？ 頭で考えてやったって、うまく出来るとは限らないし。

田中： えっと、頭の中とやれるってことが一致しなくて、それを一致させようとするには練習が必要で、その部分が運動神経なんじゃないかなってということですか？

安形： そうそう。

田中： たしかに、絵も練習あるのみという部分ありますね。画力も。そういう捉え方したこと、ないな。

安形： (笑)

田中： 安形さん、理系の大学行ったんですよね。それで漫画描いてたの？

安形： うん。

田中： なんか補ってる感じ（笑）

安形： うん、かなあ。通ってる時はそんな感じだったんですけど、卒業するくらいになると、「結局やってること、一緒だなあ」ってなるんですよ。絵描くのにしても、理系で勉強するにせよ。

田中： どんなところが？

安形： なんていうのかな。理系だと仕事で図面等を描くじゃないですか。頭の中でイメージしたことをアウトプットする過程がありますね。設計って、頭が良ければ出来るって思われがちなんですけど、そうじゃなくてね。頭が良すぎると、かえって出来ないんですよ。

田中： そうなんですか？

安形： 結局、アウトプットが出来ないんですよ。描いて、図面として。今は、『CAD（キャド）』とかになってるんですけど、絵とか、CG。絵を描くってというのは、ものを観察してデッサンしてアウトプットさせるわけですね。

設計ってというのは、こういうものが作りたいというコンセプト等々あって、「この部品が必要で、じゃあ作りましょうね」って、そういう図面を作っていくんです。となると、結局のところ、「やってることは一緒でしょう」と。表現としては、絵の方は、実際ものを作るわけではないので、それは自分の自由度が高いっていう感じかなあって、最後の方は思っていましたね。

田中： 頭が良すぎると、設計が出来ないっていうのは？

安形： あの、頭が良いっていうのを、どう言ったらいいか、わからないんですけど。

田中： うん。

安形： 全部わかっている事が、頭がいいって考えると。でも、設計は、『ものを作る指示』なんですよ。

田中： うん。

安形： これを10センチで切るとか。でも、完璧に切れるわけじゃなくて、誤差があるんです。それを組み立ててくとズレてくるから、その誤差をなるべく少なくして、最終段階でこういう形で出来るってことを目指すのが、たぶん、今の日本の基本的な考え方で。

田中： はい。

安形： 頭が良くて、全部知ってるってなると、「ここはこれぐらいで」っていうことが出来ないというか、融通が利かないのかなって思う。

田中： うーん。全部知っていると、正確な指示が出せる気がするんだけど。そうではない？

安形： と思うんだけどね。

田中： お話を伺ってて、頭が良すぎて出来ないっていうのは、その人の頭の中に出来てるものが形としてはあるんだけど、それを形に起こすための設計図になってないというか。奇抜さとか。外国の建物とかで、構造的には説明がつかないのに、成立してる階段とか。どうやって作ったのかは、わからないけど成立してるようなものがあって。

安形： ありますね。

田中： そういったものが、その人の頭の中にあるんだけど、それを他人が見てわかる設計図には落とし込むことが出来ないから、頭の良すぎる人は設計が出来ないっていう解釈になるのかなって、思いました。

安形： それもありますね。最終的に組み立てないと作業は終わらないし、途中で考えてると先に進まないわけですが、頭の良い人だと、考えちゃうんですよ。自分の担当以外の部品の事までも。

田中： ええ。

安形： これ、どうなってるのとか調べ出しちゃったりして、決められなくなっちゃう。それよりは、自分の受け持った図面を早く上げてほしいわけです。でないと、作業が進まない。

田中： 迷い蟻のようですね。

..... つづく ^^

◆アメリカと日本の製作スタイルの違い

安形： それはありますね。ものの作り方も、日本人とアメリカ人とは全然違いますし。

田中： どんな違いがあるんですか？

安形： 日本人の場合だと、全部指示してあげないといけないんです。図面指示で一個でも抜けてると「出来ない」とか言い出すんです。「これはどうすればいいんですか？」とか。それは全くその通りで、図面通り作るっていうのはそういうことなんですけど。

田中： はい。

安形： アメリカの場合だと、その辺はかなり適当で「こことここが繋がっていて、これが出来てればOKだから」というと、「いいよ、わかった」とって、やってくれるんです。そうすると開発が速いんですよ、作業効率的には。開発プロジェクトの場合、現場から「図面指示がないから出来ません」というパターンだと遅くなってしまいます。

田中： 試作品もなかなか出来てこなさそう。

安形： 出来てこない。試作品の時は、「こことここが出来てればいいから、やっちゃって」という方が速いので。

田中： 指示の出し方も、対応も違って来るんですね。

安形： うん。人間性というか、国民性だと思いますよ（笑）日本人は几帳面なんでしょうね。アメリカの場合だと、そんなことは考えてなくて、「やっちゃえ」みたいな感じで。

田中： 「わかってるよ、これ作ればいいんでしょ？」みたいな。

安形： そんなノリですね。

田中： サラリーマン時代は、何を作ってたんですか？

安形： 飛行機。

田中： じゃあ、誤差があっちゃ、困るじゃないですか？

安形： それがおもしろいところで。産業としては、飛行機って言ったらアメリカじゃないですか。70年代のアポロ計画とか、「月まで行くぞ」って無理矢理に作っちゃったりして。「それがなんで出来るのかな？」って思った時に、アメリカの技術者とつきあってみると、やっぱり「やっちゃえ」みたいなところがあって。

田中： その分、悲劇もあったりしましたけどね。

安形： その辺も国民性で、ああいうので亡くなった方はヒーローとして扱われるし。

田中： はい。

安形： よくあったのが、こっちで描いた図面をアメリカで作ってもらうことがあるんですが、図面指示にないことを、時々やってきて。

田中： （笑）

安形： ケースとしてOKだったら、組み立ててみて大丈夫だったら、「そのまま使っちゃえ」ってことも。

田中： 飛行機業界のイメージが変わるー。

安形： 結構、いい加減ですよ（笑）

田中： 飛行機とか出てくるドラマと、全然違う感じがします。

安形： 実際とは違いますね（笑） ドラマの半沢直樹を観て、銀行員も思ってるんじゃないですか（笑）「うそっぱちだ。倍返しなんて、言わないよ」って。

田中： （笑）

安形： アメリカがつくる車と、日本がつくる車も違うじゃないですか。

田中： 全然違いますね。アメ車はガソリントクの蓋をせず、逆さにしてに走る位に燃費がわるって話も聞いたこともありますけど（笑）

安形： 車にもよるんでしょうけどね（笑） アメ車の場合エンジンが大きいので、そりゃ燃費も悪くなりますよ。だって、あの国土を走るって考えたら、パワーがないと。

田中： たしかに！ なんかおもしろい。『走るのにパワーがいるからエンジン大きくする』って考え方と、日本の『長距離走るならガソリンの燃費を良くする開発をした方がいいよね』的な考え方と。『長距離を走る』っていう同じ目標にした時のアプローチの仕方が違うわけですよね？

安形： そういう考えもあるかもですね。アメリカだと西から東まで道が長くて、そこを走らせるっていうと、やっぱりもの的に違いますよね。途中で壊れたら、自分で直すしかないし。

田中： そうかあ。自分で直す時に、あんまり複雑だと自分で直せない、という発想もあるかも。シンプルじゃないと。

安形： そう。案外、「複雑なことを考えるのが面倒くさいからシンプルでいいんじゃないの」っていう考えもあるんじゃないかと。

田中： アメリカって、ものをものとして見てる感じがする。

安形： あー、それはそうだと思います。

田中： 日本だと、ものに対する思い入れがあるような。

安形： 擬人化しますね。車を「〇〇ちゃん」とか（笑）

田中： しませんけど（笑）アメリカは『車は移動のための道具』みたいな。日本だと買った車を洗ったり常にきれいにしようとしてるけど、アメリカだと、凹んだり錆びたりしててもそのまま乗ってたり。思い入れの違いがある気がします。

安形： 国民性なのかな。友人でアメリカに行って「車がホイールだけで走ってたよ」って（笑）

田中： あはは。タイヤないんだー。

安形： 火花散らしながら走ってたよって（笑）

田中： すごいな（笑）

安形： 思ってることと発する言葉が一致すれば建設的な仕事ができる。

田中： 安形さん、飛行機作りから、いきなり自営に入られたの？

安形： そうです。

田中： またすごい方向転換ですね。

安形： うん。そう言われるんですけど、自分としては、やってることは同じなんです。

田中： さっきの、「最終的には、同じ」っていう？

安形： 同じです。もの作る等々。

田中： きっかけは？ 実際にそちらへのスイッチとか。

安形： なんとなく（笑） まあ、いろいろ理由をつけると、ぼくは次男でまだ結婚もしてなかったし、住んでるところが実家で、店やってたんで、「どうする？」って言われる前に「自分でやるわ」ってなって。

田中： へえ。何か大きな転機があったというわけでもなく、「飛行機もお布団も一緒かな」みたいな感じで？

安形： そんな感じですねえ（笑）

田中： 劇的な話を期待してるわけじゃないので（笑） とっても自然な感じでいいですね。

安形： うん。ぼく、心がひねくれてるのか、理由つけて大層なこと言ったり、頑張るぞとか見ると「ほんとかよ？」って思っちゃうんです（笑）

田中： それ、なんかわかる気がする。私、高校時代に、「合唱コンクール、みんなで頑張ろ！」って暑苦しく言われて、引いてましたもん（笑）

安形： ぼくもそういう性質（たち）なんですよ（笑） 「頑張ればなんとかなる」って言われると「そう？」ってなる。

田中： ちょっと、斜に構える感じで（笑）

安形： 斜に構えてますね、今でも。なんかひねっちゃいますね。時々いるじゃないですか、「

頑張るぞー」って熱い人。あれ、なんなんでしょうね。頑張るぞーって言ううちに、頑張りがいいじゃんって思うし（笑）

田中： あはは。

安形： よくあるのが、頑張ると勘違いして、ガチガチに力入れちゃって失敗してる人とかいるじゃないですか。自分で頑張ったと思いこんじゃってて、「それ、根詰めて無理しちゃってるだけだよ」って言うと怒られるけど（笑）

田中： 安形さんにとって、頑張るじゃなくて、いい感じのはたらき方、仕事への向かい方ってどんなふうに捉えていますか？

安形： あー。職場、生活等々、とか？

田中： ええ。

安形： なんていうのかな、時々あるのが、心の中で思ってることと発してる言葉が違うときがあるんですよ。

田中： それは、ご自身？ 相手の方？

安形： 自分でもそうですし、相手もそう。会社だと何人かと働くわけじゃないですか。心で思ってることと発する言葉が同じで、なおかつ、それがなんでも言える状況じゃないと、建設的なことは出来ないと思ってるんです。サラリーマン時代、いろんなプロジェクトやってたけど、それが出来ないと成功しないんですよ。

田中： 思ってることと、発してる言葉が一致してる、行動に乖離がない。

安形： そういうことです。

田中： 結構、「裏腹なこと言ってるな」って、わかりますもんね。

安形： わかります。わかります。言ってることとやることが一緒なら、「そうだよね」ってなる。

田中： うん。そういうのって、伝わっちゃうから。人と会ったりしてる時、見てる部分かなって思います。

安形： ぼくもそうですね。

田中： 安形さん、お布団屋さん、おもしろい？

安形： おもしろいですよ。

田中： どういったところが？

安形： もの作ってるところが（笑） 作って、売ってる。好きなんでしょうね、そういうのが。

田中： お布団ってどうやって作るんですか？

安形： 手で縫います。自分で綿入れたり。

田中： 布団用の針って長いんですよね。

安形： ですね。ぼくが使ってるのだと『綴じ針』で2.5寸。

田中： 一枚作るのに、どれくらいの時間がかかるんですか？

安形： 早くて一時間半。全部用意してあった上での一時間半。その前に生地を縫って、綿打ちしとかないといけないし。丁寧に綿打ちしてシート状にして、生地をおふとんの四角にして綿入れて、最後綿がずれない様に閉じて……という過程。おもしろいですね。

田中： 昔って、寒くなると自分ちで綿入れたりされてたんですよね？ 丹前（たんぜん）作ったりとか。

安形： してましたね。うちでメーカー品も扱ってるんですけど、よくあるのがベッドパッドとか。羊毛もさすがに自分では仕立てられないけど（笑）

田中： 安形さんからみた、最高のお布団の組み合わせってなんですか？

安形： 組み合わせ？ うちでお勧めしてるのは、下に網目状の「ブレスエア」っていう、新しい化繊の糸をほぐして春雨にしたもので、その上に薄い綿ふとんを重ねて、最後にキャメルの子毛の敷きパット。中に毛が入ってるやつ。

田中： 表面は毛じゃないのね。なんかモアモアしてるのを想像しちゃった（笑）

安形： 敷きとしては、それがベスト。掛けは『真綿ふとん』って言って、シルクなんですよ。お蚕さんの糸を綿にしたやつ。それを毛布代わりにして、その上に『羽毛ふとん』ですね。真綿ふとんはオールシーズン使えて、寒くなったら羽毛ふとんを足す。それがうちのおすすめですけど、個人個人状態が違いますからね。

田中： そうですね。安形さんはどんなの使ってるんですか？

安形： ぼくは今、キャメルだけ敷いてないかな。暑い時は、麻のパット敷いて。キャメルはもうちょっと余裕が出来たらぼく用のを買おうかなって思ってる（笑）

田中： それは、おうちでお洗濯出来るんですか？

安形： 出来ますけど、大変なんでクリーニングをお勧めですね。きっと一日かかってしまうので。

田中： 餅は餅屋ですね。

安形： え？ どういう意味ですか？

田中： 専門は専門の方をお願いしたほうがいいってことで。お家で変に洗って型崩れさせちゃうよりはクリーニングさんに出す方がいいかな、とか。

安形： 出した方がいいと思います。革ジャンは洗濯機で洗っちゃいけません（笑）

田中： 時々間違った節約の仕方をする人がいて。機械を自分で修理しようと分解してみたら、戻せなくなっちゃった、とか（笑）

安形： ぼくは分解しますけどね。趣味だから（笑） 直す前提じゃなくても、分解しちゃいますね。

田中： ちっちゃい頃からそうだったんですか？

安形： 分解癖はありましたね。時計とか。

田中： 理系の方の、割によく聞くエピソードですね。

安形： みんなやるんでしょうね。「どうなってんのかなあ？」って。無意識的にやってるんでしょうね。

田中： ね。人間の脳ってとてもお利口らしくて、無意識下には見たこと、聞いたこと全てインプットされてるらしいから、小さい時に分解した絵的なものも、結構残ってるかも知れないなあって。

安形： 残ってると思いますよ。でも全部覚えてたらもたないので、身体が（笑）

田中： 圧縮されてるのかな。

安形： きっとね。

田中： その圧縮ファイルを解凍したら、出てくる、みたいな。それが必要な時に。

安形： うん。それはあるかも。自転車もしばらく乗ってなくても、乗れますよね。

田中： ね。スキーとかも、そうですね。人っておもしろいです。

安形： ハタラクヒトペディア、おもしろいですよ。書籍化したらおもしろいなって。

田中： ありがとうございます。

安形： ぼくも、サラリーマンやってた時、「会社に入る前に思い描いていたイメージと、入った後って違うよね」って思って。入ってみると「あれ？」っていうのがあって、若い頃は結構悩んじゃったりして、でもそこでまた頑張るのかとか、辞めるかを考えたりしましたね。

田中： ギャップ、ありますよね。頭ではわかってたつもりなんだけど、それを実感として感じるのとは大きな違いがある気がします。

安形： ありますね。

田中： 肉体的なつらさは耐えられるけど、ねちねちいわれるのはダメとか、特性も人それぞれあるでしょうし。でも、人間関係の良さとか、「それでも、がんばろう」って思えるものや、そこに繋がってられる何かとか。そういった要素があれば、離職率も低くなるんじゃないかと思ったりします。

安形： 十分な繋がりがあればあるほど、建設的になっていきますしね。

田中： さっき安形さんがおっしゃってた建設的な環境っていうのも、まさにその通りだと感じました。そうした繋がり感というか……。そうしたものが多いほど、みんなが気持ちよく働けるでしょうしね。気持ちよい要素の多いところでは、それぞれが繋がっていたい思うでしょうから、とても大事なものだと思います。

安形： 大事ですよ。

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

安形さんにもインタビュー後、おつきあいいただきました。

まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

<いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思えますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思えますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

..... つ

づきは安形さんのおこたえデス ^^

田中： あと、もうちょっとよろしいですか？

安形： なんですか？

田中： 月並みですが、小さい頃はどんな子供でしたか？ あ、さっき時計壊したって言ったましたね（笑）

安形： そんな感じですね（笑） ちっちゃい頃ねえ、今よりは明るくはなかったかもしれない。自分的には普通だけど、周りからみたら変だったかもしれないし（笑）

田中： （爆笑）

安形： そんなもんじゃないですか？ 子どもの頃って「自分が興味ある事しかやりたくない」って思って。

田中： あー、あるあるある。

安形： 自分のやりたいことを止められるとイライラして。その頃喧嘩っ早くて、自分が押さえられなかった。中学に入った時に、さすがに「これはいかん」って、ちょっと大人の階段一步のぼって（笑）で、今に近い感じになって。

田中： （笑）

安形： 高校は男子校で友達もいたんですけど、放課もずーっと本読んでた。

田中： どんな本読んでたんですか？

安形： うん、『赤川次郎』だったかな。

田中： 推理小説系。推理って、理系って感じがする。精密に組み合わせられて。理系の文字版って感じがします。

安形： キャラ的には、シャーロック・ホームズが好きなんで。

田中： 好きな本を一冊選んでください。

安形： え？ ないっす。好きな本って言われるとね、基本、本は全部好きなんで。

田中： 一冊に絞るのが、難しい感じですか？

安形： 難しいですね。

田中： いつも必ずする習慣はありますか？

安形： 寝る（笑）

田中： さすが、お布団屋さん（笑）

安形： そうないですよ。習慣.....ないなあ。ないですね、ぼく。

田中： 今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか？

安形： いやあ、ない。

田中： それは、思い出せない感じ？ それとも、ないのかな？

安形： それなりに客観的というか、他の方から見れば「大変なんだろうな」っていう状況でも、ぼくはあんまり大変だと思わない性質（たち）なんですね。

田中： でも、お話しをしてみると、結構周りが。

安形： うん。「大変だよな」って。

田中： 例えば、どんなことがあったんですか？

安形： 高校の時に父親が事故で他界してるんですよ。その時は、周りから見れば大変な状況、にも関わらず、ぼくとしては、そう大変とは思ってない。

田中： そうは、感じなかったんですね。

安形： 感じなかったですね。まだ若かったので大変というものがわかってなかったからかもしれないし。

田中： なんていうのかな、出来事とかを、そのまんま見てる感じがしますね.....。

安形： その時、ですか？

田中： その時だけではなくて。出来事の中に入り込まないというか。

安形： あー！ かもね。

田中： 時計とか、文字盤外すと中にいっぱい歯車とかあって。それが動くのをずーっと見てるような。

安形： あー、それはありますね。小さい頃からいつも、どこか客観的なんですよね。

田中： 動きを見てるのはおもしろいんだけど、その中に入って実際に自分が動いてみようとは思わなくて。ただそれをただ見てるっていう、そんな感じかなって思いましたけど？

安形： うん。父が亡くなった時は、葬儀の手伝い等々やってて。周りの家族は「大変だ、大変だ」って言ってたんですけど、何がどう大変なのか、ようわかんない（笑）

田中： 大変の定義がわからない？

安形： そう。「ただ父親が事故って死んだだけだろ？」って。

田中： それがただ「現象として、あるな」って感じの見方をされてたんですね？

安形： そうそう。

田中： それは悲しいとか、悲しくないとかとは違うレベルでかしら？ 悲しさもあるけど、その感情に翻弄されるのとは違う感覚ですね。

安形： 違いますね。母親とかショック受けて、そうなるんですけど。なんでそうなるのか、わからない。理解出来ない。

田中： あると思います。私、悲しいとか、大変ってその人の主観のような気がしています。

安形： うん。

田中： ですから、割と「それがどこにあるのかな？」って、見ちゃう方です。

安形： それはありますね。あと、まあ、大変な時に、燃えるっていうのもありますけど。

田中： （爆笑）状況的に？

安形： 状況的に……。キャラが違う方によって、脳ミソの回転が速くなって、それをきれいに処理してくっていう。ナルシストなのかな（笑）

田中： そういうモードに入るんですね。

安形： そういうモードに（笑）だから、ぼくにとっては、大変じゃなくて、ただ処理してるだけのものかも？

田中： そうですね。先日インタビューさせていただいたカメラマンさんのお話なんですけどね。

安形： うん。

田中： その方、普段は省エネタイプなんだけど、いざという時には、羊の皮を被った狼じゃないけど、めちゃギアが入る時があって、そういう時は走っちゃう。だけどそれすると大変だから、普段は省エネでっておっしゃってました（笑）

安形： ぼくも、そうですね。いつもはぼーっとにこやかに穏やかなイメージらしいんですけどね。でも、仕事やイベント等々あって、ギアが入ってる時は、脳の回転も変わって。イメージが違うって言われますね。

田中： おもしろいな。これ、褒め言葉ですから（笑）

安形： ありがとうございます（笑）

田中： 3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか

安形： 願い、ないよ（笑）

田中： いいっす。いいっす。因みに大志朗さん（加藤大志朗さん）は、「叶ったら、困る」って言っていましたからね（笑）この世は修行だと思ってるから。

安形： ああ、叶ったら修行が終わっちゃうから、叶ったら困る（笑）

田中： そうそう。

安形： なるほど。それはおもしろいな。

田中： 人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか

安形： 人間性。それしか見ないですよ。

..... つづく ^^

田中： 人として、これは譲れないっしょ?? っていうのがあるとしたら、何ですか

安形： 譲れないことが、譲れない。

田中： ん? お先にどうぞ.....がダメ?

安形： いえ、お先にどうぞ型なんですよ、ぼくは。「まあ、なんでもいいんじゃないの?」っていう自分がいて、それは譲れない感じですね。

田中： そういう自分であり続けるってことですね。ゲームはされますか?

安形： します、します。

田中： RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか?

因みにそのなかで、あなたの役割(キャラ)はなんですか?

安形： やる気のない、回復魔法を使う魔術師。

田中： 「やる気のない」という形容詞付きなんですね。

安形： 形容詞付き(笑) それもなかなか魔法を使わない。土壇場で「めんどくせー」って(笑)

田中： それはどんな冒険になるのでしょうか(笑)

安形： のほほ一んとした、やる気があるんだかないんだかわからないような、『パーティ』なんでしょうね(笑)

田中： 「攻め」と「守り」、自分はどちらだと思えますか?

安形： 守り、じゃないですかね。

田中： 全く何の制約もないとしたら、何をしますか

安形： 困る。何もしないと思えますよ。

田中： どんな時にイラッとしますか

安形： 瞬間的には、自分のやりたいことが出来ない時はイラッとしますね。

田中： え？ ジャイアン？（笑）

落ち込んだ時、どうやってリセットしていますかという質問なんですけど、そもそも落ち込むことって、ありますか？

安形： いや、時々ありますよ。でも、振り幅は他人より狭いでしょうね。

田中： うん。

安形： で、落ち込んだ時、何もしないですね。いつも通り。

田中： あがいたり、騒ぐことなく、時間が過ぎるのを待つ。

安形： そう。

田中： たしかに、底なし沼でもがくと、どんどん沈んじゃうよね。

何をしている時が一番楽しいと感じますか？

安形： 集中してる時かな。

田中： お布団を縫ってる時とか？

安形： 楽しい。本読んでる時も、ゲームしてる時も、ドライブしてる時も。

田中： 楽しい時、いっぱいあるじゃん（笑）

安形： そう（笑）

田中： 今は？

安形： 今、楽しいですよ（笑）

田中： よかった。ちょっと言わせちゃった（笑）

あなたの萌えポイントを教えて下さい。

安形： 萌え？……スマイルじゃないですか？（笑）

田中： え？ そんなきれいな答え、期待してませんから（笑）
今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい。

安形： 大きなこととしては、たぶん映画を見たことでしょうか。『王立宇宙軍 オネアミスの翼』っていうアニメ映画があったんですよ。あれをちっちゃい時見て、理系が好きになったんでしょうね、たぶん。ロケットを打ち上げるという内容で。

田中： それがきっかけで、理系に？

安形： ちっちゃい頃、あれを何度も何度も見てたんで。結構大きな影響を与えたんじゃないかと思います。方向性を決めたような気がします。

田中： 今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか？

安形： なんとなく……って感じじゃないですか（笑）

田中： 機械が、淡々と動いてて。負荷をかけて動かすって感じじゃない。

安形： うん。ですね。それはあるかも……さっきも言ったけど、小さい頃、喧嘩っ早かったんですよ。

田中： うん。

安形： 喧嘩っ早いっていうのは、感情が出るんですよ。感情を原動力にして行動するんですけど、それだとなかなかうまくいかなかったんです。ものごとが解決しないなってなると、「感情を無くしていった方がスムーズに動けるんじゃないのか？」っていうのがあって。それでそう見えるのかもしれないね。

田中： うん。

安形： でも、集中してたり、仕事としてやるときには、静かな前向きでニュートラルな感情は持ってないと前には進まないし。そういう感じだと思います。そうじゃないと上手くいかない。建設的にはならない。そういうのは今までの経験上、ありますね。

田中： 今死んでも悔いはありませんか？

安形： ふふふふ。そりゃ、あるでしょう。

田中： 身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか？

安形： そのままじゃないですか。とか言いつつ、「宇宙にいきたい」とかいい出すんですよ（笑）

田中： ふふ。この間、宇宙葬についての記事があったような。20万くらいだったかな。

安形： え?? 安っ！

田中： 私、宇宙葬、いいなって思って。

安形： 宇宙葬は、なんか淋しくないですか？

田中： そう？ 私自分が死んだときは、「この世に自分が生きてた痕跡、すべて遺したくない」みたいなものがあるんです。

安形： ええっ??

田中： だからアルバムとかも執着なくて。私個人を悼むっていうのは、一切合財いらないの。「無にしたい」というのがあって。だから、宇宙葬いいなと思います。ま、いいや（笑）
次に生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか？

安形： 女の子じゃない？

田中： 女の子？ 今まで、結構、「男がいい」という人が多かったです。

安形： そうなんですかー。だって、女の子の方がわがまま言える幅が広いじゃないですか。

田中： そっか。

安形： 男の方は言って許されるわがままの幅は、社会的に狭いじゃないですか、たぶん。

田中： あー。でも「イケメンに限る」とか、「美人に限る」とか。

安形： それは、ある（笑）

田中： 人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか？

安形： 今、ふと思いついたのが、ハムスターかな。

田中： え？ ちっちゃい。

世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか

安形： ないんじゃないの。

田中： 自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、教えてください。

安形： ない（笑）

田中： 自分のキャラを一言でいうなら

安形： 自分で言うんですか?? 『癒しキャラ』なんじゃないでしょうか。……言ってもうた（笑）

田中： 言ってもうた（笑）

安形： 自分で言っちゃいかんでしょ（笑）

田中： 今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか？

安形： 時間。これ、ずっとかもしれない。

田中： 今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったら教えてください。

安形： 失礼で、すみません（笑）

田中： どうもありがとうございました！

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』 という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約550人のコーチがCPCCの資格を取得し、世界中では6,900人のコーチがこの資格を持って活躍しています。（2014年6月現在）

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）』 も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」 を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。

もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< ace-support@samba.ocn.ne.jp >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト*ペディア 13 <安形弘二氏>

<http://p.booklog.jp/book/81806>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/81806>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/81806>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ